

2022環境経営レポート

実施期間：2022.01～2022.12

ECO VALVE

配管システムの省スペース化、軽量化に

BSシリーズ



日本バルブコントロールズ株式会社

発行 2023年02月28日

目次

1.	環境方針	-----	1
2.	会社概要	-----	2
	(1) 事業所	-----	2
	(2) 事業活動の内容	-----	2
	(3) 事業規模	-----	2
	(4) 沿革	-----	2
	(5) 組織図	-----	3
	(6) 連絡先	-----	3
3.	環境経営目標	-----	4
4.	環境経営活動・取組内容と計画		5
5.	環境経営目標の実績と評価		6
6.	環境経営活動・取組内容の結果と評価及び次年度の計画		7
7.	環境関連法規の遵守と環境問題訴訟の有無		8
8.	代表者による全体の評価と見直し・指示		9

環境理念

当社は、地球環境を守る事を最優先課題の一つとし、環境保全に適した弁・自動弁・制御機器の開発と生産に努め、製品販売する事で環境負荷の低減活動に全員で取り組みます。

環境方針

- (1) 環境に配慮した製品の提供に努めます。
製品の長寿命化や、省資源、省エネルギー設計や、有害化学物質の排除、削減に取り組みます。
- (2) 関係する環境法規とその他の要求事項を遵守します。
環境関連の法律、規則、協定等を遵守し、環境管理システムを継続的に改善し推進します。
- (3) 環境に配慮した企業活動に努めます。
工場・事務所及び生産工程のムダをなくし、省エネと資源の有効活用を推進します。
当社はグリーン調達に取り組みます。
- (4) 環境意識の向上
全社員の環境意識の向上を図ると共に、ひとりひとりが、環境保全活動を出来る様、啓発を行います。
- (5) 地域社会への貢献
地域社会の環境保全活動の参画、支援に積極的に取り組みます。

この方針は全従業員に周知し、社外へも公表します。

制定 2008年6月2日
日本バルブコントロールズ株式会社
代表取締役 **船見昭夫**

2. 会社概要

弊社は1981年の発足以来、自動弁の専門メーカーとして、配管システムの自動化に取り組んでまいりました。

低価格で高品質の自動弁のニーズが高まるなか、いち早く自動弁の開発とそのコストダウンを進め、今日では数多くの実績と各方面のご愛顧を頂いております。

対象範囲(認証・登録範囲) 全組織・全活動
基準 エコアクション21ガイドライン 2017年版

(1) 事業所

事業所名	日本バルブコントロールズ株式会社 本社・事業本部
所在地	名古屋市中村区名駅南1-21-19 名駅サウスサイドスクエア 10F
事業所名	日本バルブコントロールズ株式会社 瑞浪工場
所在地	岐阜県瑞浪市山田町2001番地

(2) 事業活動の内容

弁、自動弁、制御機器の製造と販売

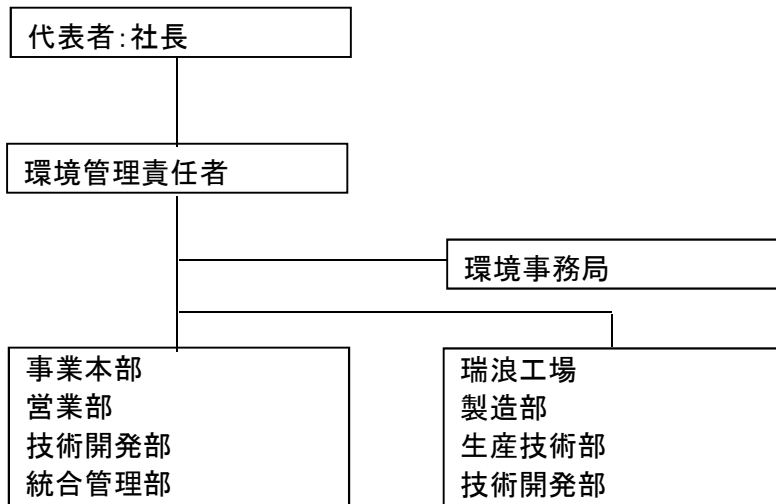
(3) 事業規模

売上高	2,958	百万円	(昨年度1-12月)	前年比17.18%増
従業員数	45	名	(昨年度12月末)	
延べ床面積	本社・事業本部	638	m ²	
	瑞浪工場	7,846	m ²	

(4) 沿革

1981年	10月	日本興産(現株式会社ヴァルテック)から分離発足 コントロールバルブの販売を開始
1997年	4月	本社を愛知県稲沢市へ移転
2005年	8月	瑞浪工場(岐阜県)開設
2008年	4月	事業本部を現住所に移転
2009年	6月	試験棟を瑞浪工場敷地内に建設
2009年	8月	エコアクション21認証登録
2010年	1月	中国上海市に販売拠点 Vpro Trading (Shanghai) Corp.を開設
2011年	10月	瑞浪第2工場増設
2016年	4月	シンガポールに販売拠点 Vpro Control Pte. Ltd を開設
2017年	3月	瑞浪第3工場増設 試験棟を第3工場内に移設
	4月	瑞浪工場内にテクニカルセンターを開設

(5) 組織図



組織	役割・責任・権限
代表者	<ul style="list-style-type: none"> ・環境方針の策定 ・環境管理責任者の任命 ・環境経営システムに必要な資源の用意 ・代表者による全体の評価と見直し ・環境活動レポートの承認 ・環境目標・環境活動計画の承認
環境管理責任者	<ul style="list-style-type: none"> ・環境経営システムの構築・実施・管理 ・環境活動レポートの確認 ・環境目標・環境活動計画の確認
環境事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・全体計画の立案 ・環境活動の実績集計 ・環境目標・環境活動計画の原案作成 ・環境関連法規等の取りまとめ・遵守と評価 ・環境関連の外部コミュニケーション窓口 ・環境活動レポートの作成・公開
各部門代表者	<ul style="list-style-type: none"> ・自部門における環境方針の周知 ・自部門の従業員に対する環境活動の教育 ・自部門における環境目標・環境活動計画の立案 ・自部門の環境活動における問題点の発見・改善の実施
全従業員	<ul style="list-style-type: none"> ・環境方針の理解と遵守 ・環境活動への積極的参加

(6) 連絡先

代表取締役 社長 船見 昭夫
 環境管理責任者 山崎 万愛
 環境事務局 鈴木 健司

TEL: 052-582-6435(代) FAX: 052-582-6439
 E-mail: k-system@valco.co.jp

3. 環境経営目標 年度:1月～12月

2021年度の実績を基準年度として下記6項目の環境目標を設定し、削減に取り組みます。

目標値の設定に関しましては、売上高の増加に伴い使用するエネルギーも増加する為、売上高の増減比率を反映させた数値を設定いたします。基準年度(2021年度)の売上高は2,527百万円です。

- ① 購入電力の削減と社用車で消費されるガソリンを対象に、CO₂排出量の削減に取り組みます(※1)。
- ② エコロジー、エコノミーの両立をめざし、排出する廃棄物の分別細分化により有価リサイクルを行い、最終処分廃棄物を削減します。分別状態が不十分になると廃棄物のリサイクル率(※2)を維持することが出来なくなる為、95%以上をリサイクルできるように取り組みます。
- ③ 生産活動により消費される水使用量の削減に取り組みます。
- ④ 製品に含まれる環境負荷規制物質の削減に取り組みます(※3)。
新たに採用する資材にはより環境負荷物質の少ない物を採用、梱包資材には有害化学物質を低減し、リサイクルやリユースのし易い物を採用します(※4)。
- ⑤ 製品梱包時に使用する梱包資材の削減に取り組みます。
- ⑥ 社内文書で利用するコピー用紙使用量の削減に取り組みます。

目標項目		基準	短・中期目標			
		2021年	2022年	2023年	2024年	2025年
		削減率	(-1%)	(-2%)	(-3%)	(-4%)
① CO ₂ 排出量の削減	総量 (kg-CO ₂)	128,038	126,758	125,477	124,197	122,916
	売上原単位 (/百万円)	50.7	50.2	49.7	49.1	48.6
購入電力使用量の削減 (kWh)		260,566	257,960	255,355	252,749	250,143
(瑞浪)		171,897	170,178	168,459	166,740	165,021
(本社)		88,669	87,782	86,896	86,009	85,122
ガソリン使用量の削減(L)		1,824	1,806	1,788	1,769	1,751
② 廃棄物のリサイクル率向上 (%)						
一般廃棄物のリサイクル率向上		95%	95%以上			
産業廃棄物のリサイクル率向上		95%	95%以上			
③ 水使用量の削減 (m ³)		469	464	460	455	450
④ 環境負荷規制物質の削減(Kg)		各種・各国の規制基準の順守(例、欧州 RoHS)				
その他の取り組み						
⑤ 梱包資材の削減 (段ボール)	総量 (kg)	22,871	22,672	22,414	22,185	21,956
	売上原単位 (/百万円)	9.1	9.0	8.9	8.8	8.7
⑥ コピー用紙の使用量削減		664	657	651	644	637

※1:CO₂の算定には2017年度中部電力の実績に基づく調整係数0.472(kg-CO₂/kWh)を使用。

※2:リサイクル率は一般廃棄物・産業廃棄物中に含まれる再資源化の割合で算出いたします。

※3:今年度の化学物質(PRTR対象物質)の使用はありません。

※4: 調達資材に含まれる環境負荷の大きな化学物質を削減し、環境負荷のより少ない物を採用する取組を継続します。

4. 環境経営活動・取組内容と計画

① CO2 排出量(kg-CO2)	担当	計画
購入電力使用量の削減(kWh)		年度初めに、数値目標と取組項目を確認。 実績値は毎月確認、前年同月との比較を実施。 6 か月ごとに取組実績を確認し、必要があれば対応する。
・無人箇所の照明・空調のOFF	本部: 鈴木 瑞浪: 岡田	
・不要な照明の間引き・空調のOFF		
・空調温度の管理(暖房 20 度、冷房 28 度)		
ガソリン使用量の削減(L)		
・社用車の使用を控え、公共交通機関の利用	本部: 鈴木 瑞浪: 岡田	
・エコ運転の注意喚起 (社用車に「エコ運転のお願い」ラベルを貼付)		
② 廃棄物のリサイクル率向上 (%)		
・廃棄物の分別の実施(リサイクル可能な産業廃棄物・紙ごみ)	本部: 鈴木 瑞浪: 岡田	
・印刷時、裏紙の利用		
③ 水使用量の削減 (m ³)		
・水道管からの漏洩を定期的に確認する	瑞浪: 岡田	
④ 環境負荷規制物質の削減(Kg)		
・製品に含まれる規制物質の調査の実施	本部: 鈴木	
⑤ 梱包資材の削減(Kg)		
・製品に対して適切な梱包資材を利用することを心がける	瑞浪: 岡田	
⑥ コピー用紙の使用量削減		
・電子書類化ソフトの利用を心がける	本部: 鈴木 瑞浪: 岡田	
・裏紙の再利用を心がける		
その他(グリーン調達: 環境負荷の少ないものづくり)		
・リサイクルしやすい緩衝材の採用	瑞浪: 岡田	

5. 環境経営目標の数値実績と評価 年度:1月～12月

目標項目		単位	基準数値	目標	実績	目標達成率と評価
			2021年度	2022年度		
			(削減率)	(-1%)		
① CO ₂ 排出量の削減	総量	kg-CO ₂	128,038	126,758	133,605	+4.3% ×
	売上原単位	/百万円	50.7	50.2	42.9	○
電力使用量の削減		kWh	260,566	257,960	273,972	+5.1% ×
(瑞浪)		kWh	171,897	170,178	181,482	-
(本社)		kWh	88,669	87,782	92,490	-
ガソリン使用量の削減		ℓ	1,824	1,806	1,587	-12.9% ○
② 廃棄物のリサイクル率向上						
一般廃棄物のリサイクル率向上		%	95%	95%以上	99.9%	○
産業廃棄物のリサイクル率向上		%	95%	95%以上	96.4%	○
③ 水使用量の削減		m ³	469	464	462	-1.5% ○
④ 環境負荷規制物質の削減(Kg)		各種・各国の規制基準の順守(例、欧州 RoHS)				○
その他の取り組み						
⑤ 梱包資材の削減 (段ボール)	総量	kg	22,871	22,672	26,850	+12.4% ×
	売上原単位	/百万円	9.1	9.0	9.0	○
⑥ コピー用紙の使用量削減		kg	664	657	630	-5.1% ○

【評価】

- ・「①二酸化炭素排出量の削減」については、新型コロナウイルス感染症対策として、換気を行いながらの作業を行ったため空調電力による電力使用量が増加したためと判断しております。
- ・「⑤梱包資材の削減」については、売上高増加(昨年比 17%増)に伴う出荷量増加により、梱包資材の使用量が増加したためと判断しております。
- ・その他の目標達成項目につきましては、今後も環境経営活動・取組を継続していきたいと思っております。

【その他活動実績】

- ・工場周辺の環境保全活動として地域の草刈りや清掃に積極的に参加しています。

⑦ 環境経営活動・取組内容の結果と評価、及び次年度の計画

目標項目に対する取り組み内容	評価	コメント	次年度計画
① CO ₂ 排出量の削減		瑞浪工場は換気を行いながらの作業のため、空調電力は昨年と比べ増加いたしました。	引続き今年度と同様の取り組みを継続、徹底、充実させる。
- 電力使用量の削減			
・時間外は無人箇所の照明・空調をOFFにする。	○		
・不要な照明・空調をOFFする。	○		
・空調温度の管理(暖房 20 度、冷房 28 度)。	○		
- ガソリン使用量の削減			
・社用車の使用を控え、公共交通機関の利用を心がける。	○		
・社用車に「エコ運転のお願い」ラベルを貼付し、注意喚起する。	○		
② 廃棄物のリサイクル率向上		取組内容に問題は無いと考えています。	引続き今年度と同様の取り組みを継続、徹底充実させる。
・廃棄物の分別回収を行う。	○		
・印刷時、裏紙の利用	○		
③ 水使用量の削減		異常の発生は無く、問題無いと考えます。	試験装置に雨水利用設備を設置し、利用します。
・水道管からの漏洩を定期的を確認する。	○		
④ 環境負荷規制物質の削減		追加された規制物質の含有調査を進めています。	調達品の調査を更に推進します。
・製品に含まれる規制物質の調査の実施。	○		
その他の取り組み		取組内容に問題は無いと考えています。	引続き今年度と同様の取り組みを継続、徹底充実させる。
⑤ 梱包資材の削減			
・適正な梱包を心がけ、ムダな梱包資材を削減。	○		
⑥ コピー用紙の使用量削減			
・電子書類化ソフトを利用する。	○		
・社内文書へ裏紙を利用する。	○		
グリーン調達: 環境負荷の少ないものづくり		梱包用緩衝材として生分解性の袋詰めパック緩衝材や、段ボールを採用しています。	
・リサイクル、リユースのしやすい緩衝材の採用。	○		

⑧ 環境関連法規の遵守と環境問題訴訟の有無

法規遵守状況の評価

環境関連法令は「法的要求事項一覧表」に適用する法令等として取りまとめ、遵守状況を確認しました。

確認者	確認日
鈴木	2023年1月31日

法規制等の名称	適用範囲	遵守事項	遵守確認
廃棄物処理法	一般廃棄物	・許可確認	遵守
	産業廃棄物	委託基準 ・許可証の確認(収集運搬及び処分) ・委託契約書 マニフェストの交付及び管理 ・処理場の現地確認 ・処分状況の確認	
家電リサイクル法	特定家電品廃棄物	・販売店にリサイクル料金の支払い ・特定家庭用機器廃棄物管理票	遵守
自動車NOx PM法	自動車の使用	・自動車からの排ガス抑制の努力 ・燃料使用量の把握	遵守
下水道法	一般排水・洗浄水の排出	・特定事業場に該当しない	遵守
フロン排出抑制法	業務用冷凍機器	・四半期に1回以上の簡易点検を行う	遵守
欧州RoHS指令	製品への規制物質管理	・規制物質の排除又は削減管理	遵守
工場立地法	工業団地準則5条、6条	・工場集合地内緑地面積の算入特例適用	遵守

※過去3年間環境問題に関する違反、苦情、訴訟等の指摘は1件もございません。

⑨ 代表者による全体評価と見直し・指示

全体評価

二酸化炭素排出量の削減やガソリン使用量の削減、電力使用量の削減については適切に取組が行われています。

梱包資材に関しては使用量が増加いたしました。売上高比率では削減傾向にあります。

今後も維持、更に削減できるよう努めてください。

環境マネジメントシステムの状況は、概ね問題無く機能していると評価しています。

環境経営方針

変更なし 変更あり

環境経営目標・計画

変更なし 変更あり

実施体制

変更なし 変更あり

評価・見直し実施 : 2023年2月28日 代表取締役 社長 船見昭夫

次回、「2023環境経営レポート」発行は、2024年3月頃を予定